

R E P O R T

第54期年次報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

株主・投資家のみなさまへ



 Nakamura 株式会社中村超硬
証券コード：6166



代表取締役社長
工学博士

井上 誠

株主の皆様には、平素より、当社事業に対し多大なるご理解、ご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

第54期(2024年3月期)においては、ベアリング、半導体業界の不調や中国経済の停滞、原材料・エネルギーコストの高騰の影響を受け、売上・利益ともに期初に掲げた業績見通しを大きく下回ることとなりました。また、「既存事業のさらなる収益力の強化」「ナノサイズゼオライトの事業化」については達成することができず、株主の皆様にはご心配をお掛けすることとなり、非常に心苦しく思っております。

第55期(2025年3月期)においては、パワー半導体向けを中心としたダイヤモンドワイヤの販売量拡大による「D-Next事業の収益事業化」の実現と、既存事業である「特殊精密機器事業と化学繊維用紡糸ノズル事業の業績回復」により、営業黒字を確保いたします。また、ナノサイズゼオライトの事業化に向けては、数多くの用途において量産開始に向けて進捗している顧客・エンドユーザーによる実証評価に対し、全力で対応してまいります。これらの結果、第50期より取り組んできた「構造改革」の完了を成し遂げる所存であります。

また、2030年度までに実現を目指す企業としての姿を「Vision 2030」と銘じて株主の皆様にお示しをし、今後3年以内に4事業部門すべてが黒字化するなど、強い決意をもってこの目標に向けて邁進してまいります。

株主の皆様には、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

1. 会社概要

Company Profile

2. 成長戦略

Our strength

3. Vision 2030について

Vision 2030

4. 大阪・関西万博への出展について

Topics

財務ハイライト(連結)

Financial Highlights

株 式 の 状 況

Stock market situation

会社概要

資本金 : 349百万円
創業 : 1954年10月
設立 : 1970年12月
従業員数 : 連結:145名 単体:73名

代表取締役社長 井上 誠
常務取締役 井上 紘章
取締役 田植 啓之
取締役 藤原 邦裕
取締役 井上 絢哉
取締役 京谷 忠幸
取締役 大山 隆司
監査役(常勤) 加藤 彰
監査役 松村 安之
監査役 中川 雅晴

1. 取締役 京谷忠幸、大山隆司の両氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 加藤 彰、松村安之、中川雅晴の3氏は、社外監査役であります。

上海那科梦乐商贸有限公司

(中国現地法人)

上海市長寧区婁山関路83号新虹橋中心大厦
26階2613、2653室
+86-21-62130389 / FAX: +86-21-62523891

本社MACセンター

(特殊精密機器事業 / マテリアルサイエンス事業)
大阪府堺市西区鶴田町27番27号
072-274-0007 / FAX: 072-273-1250



和泉工場

(D-Next事業)
大阪府和泉市あゆみ野2丁目1番3号
0725-53-2525 / FAX: 0725-53-3333



日本ノズル株式会社

(連結子会社/化学繊維用紡糸ノズル事業)
神戸市西区室谷2丁目1番1号(神戸ハイテクパーク内)
078-991-6821(営業代表) / FAX: 078-991-6833



会社沿革



1954
大阪府堺市にミシンの
小ネジをつくる小さな鉄工所として
中村鉄工所を創業（創業者 中村 繁）



1995 大阪府堺市西区鳳南町に本社工場新設

2001 大阪府堺市にMACセンター（現本社）を新設

2005 MACセンター新棟を新設
（産学連携の拠点）
装置の受託製造開始



2008
日本ノズル㈱の
完全子会社化
（化学繊維用紡糸ノズル事業）



2015
東京証券取引所マザーズ市場に上場

新たな資本戦略へ



2015
大阪府和泉市に和泉第2工場
（現和泉工場）を開設



2022
和泉工場内に
ナノサイズゼオライトの
パイロットプラントを設置



2023
子会社日本ノズル
新工場開設
大型部品加工対応可能に



高性能フィルムダイ

2022
がん治療薬等に有効な有機化合物である
PIPの合成手法における千葉大学との
共同研究を開始



1965 超硬合金加工技術に着手

1970 株式会社中村超硬を設立

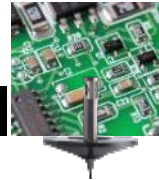
1987 創業者 中村 繁が急逝
井上 誠（現社長）が事業を継承



1988 焼結ダイヤモンド加工技術に着手

1994 ダイヤモンド製電子部品吸着ノズル
開発（社業の急成長に寄与）

初の量産化

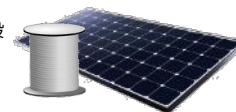


2005 自動ノズル洗浄機を開発・販売
（溶剤不要の環境製品）

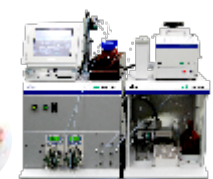
初の自社開発装置



2010 大阪府和泉市に和泉工場（旧 D-Next）を新設
ソーラー用ウエハのスライス加工開始
ダイヤモンドワイヤ製造販売開始



2012 国産初 フロー合成技術による
マイクロリアクターシステム販売開始



2016 東京大学との共同開発による
ナノサイズゼオライトの
サンプル提供を開始



2019 科学技術振興機構（JST）の
産学共同実用化開発事業（A-STEP）にて
「ゼオライトナノ粒子の製造方法と粒径制御技術」
が成功認定



当社グループは、以下の4つの事業セグメントを主な事業として取り組んでおります。

① 特殊精密機器事業

- 超合金やダイヤモンド等、高硬度材料を用いた実装機用ノズル、耐摩耗治工具の設計・製造・販売
- 実装機用ノズル洗浄機やマイクロリアクターシステム等の開発・製造・販売



② 化学繊維用紡糸ノズル事業

- 化学繊維用紡糸ノズル及び周辺部品の設計・製造・販売
- 不織布製造装置、不織布関連ノズル等の設計・製造・販売



③ D-Next事業

- パワー半導体・難削材向けダイヤモンドワイヤの開発・製造・販売
- ダイヤモンドワイヤ製造装置の開発・製造・販売



④ マテリアルサイエンス事業

- ナノサイズゼオライトの開発・販売

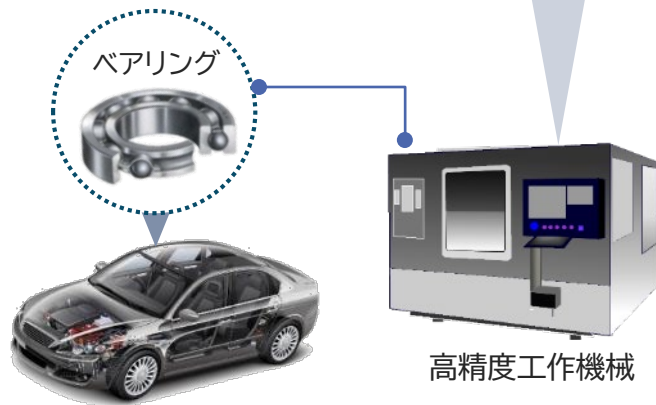


耐摩耗部品

硬脆材料の超精密加工技術を基盤に、焼結ダイヤモンド(PCD)や超硬合金、セラミックスなど高硬度材料を用いた耐摩耗性の高い長寿命部品の製造



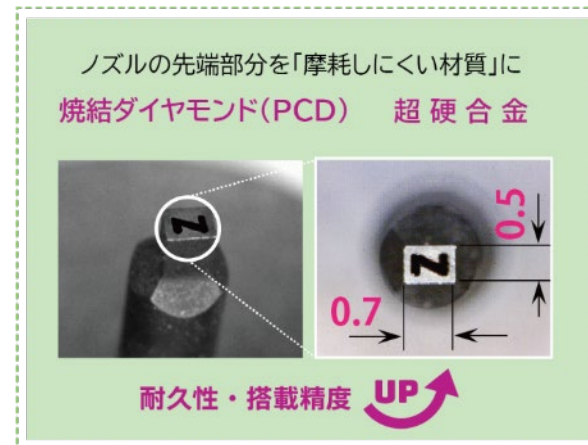
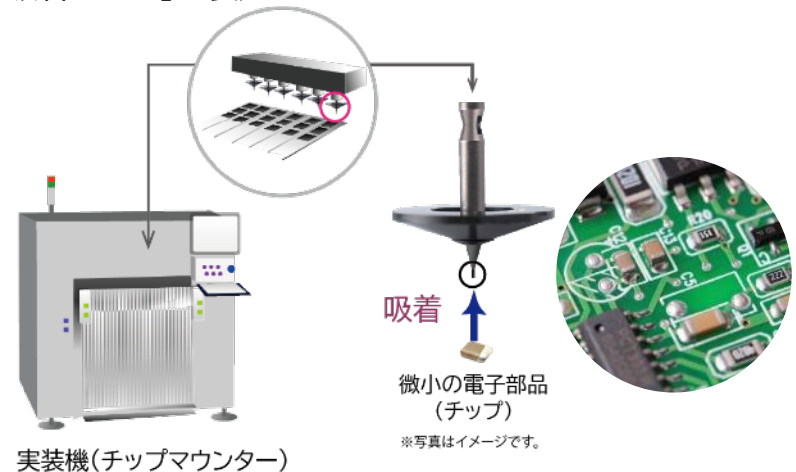
自動車・ベアリング加工用設備部品



精密部品を超耐摩耗領域へ

実装機用ノズル(電子部品吸着ノズル)

パソコンやスマートフォンなどのデジタル家電に使われているプリント基板。これに電子部品を装着する実装機の「吸着ノズル」を製造



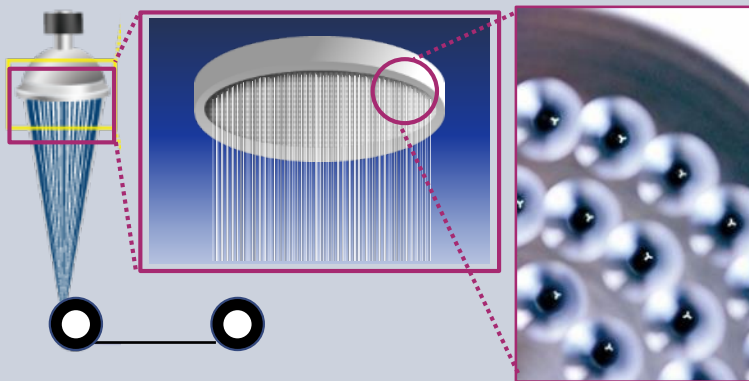
事業の概要 | ② 化学繊維用紡糸ノズル事業（子会社日本ノズル）

化学繊維用紡糸ノズル

化学繊維の製造過程で用いられる紡糸ノズルの製造・販売



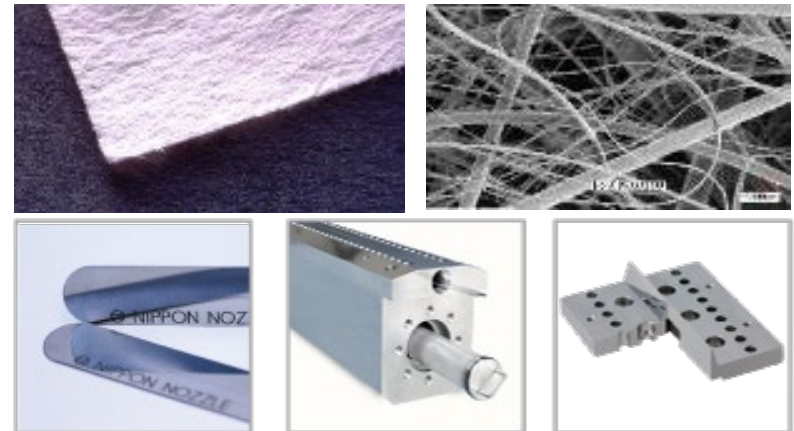
化学繊維の原料(液体)を小さな孔から押し出して糸状にする



紡糸ノズル製品はミクロン単位の超精密加工が必要

不織布ノズル・不織布製造装置

スパンレースノズルやメルトブローン生産設備など
不織布製造に関連する製造部品の開発・製造・販売

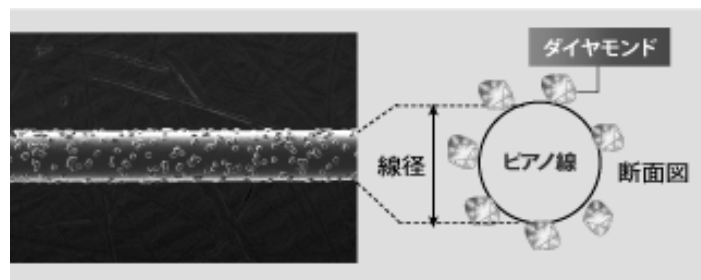
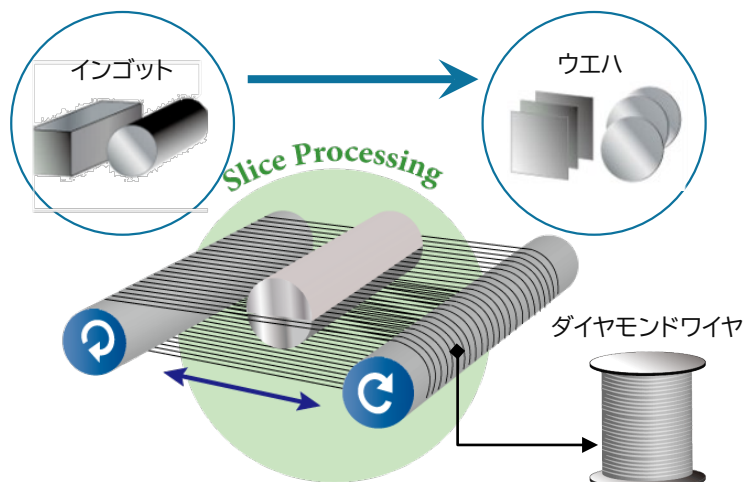


スパンレース用ノズル スパンレース用ホルダー メルトブローン用ノズル

不織布製造装置



パワー半導体・難削材向け ダイヤモンドワイヤの販売



<ダイヤモンドワイヤ>

- インゴットを薄くスライスする際に用いる切断工具
- 細いピアノ線にダイヤモンドの砥粒を固定した糸状の工具

ダイヤモンドワイヤ製造装置の販売



< 自社開発 >
PHX-01
Technology by Nakamura Chouko

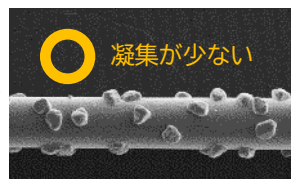
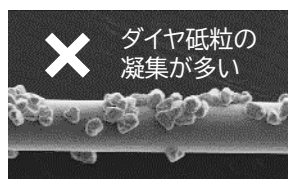
高品位なダイヤモンドワイヤをローコストで生産
主に海外向けに販売



超コンパクト構造

太陽電池用ダイヤモンドワイヤの世界的普及に大きく貢献した当社の技術とノウハウを活かし、パワー半導体・難削材向けダイヤモンドワイヤおよびダイヤモンドワイヤ製造装置の開発・改良を継続

当社独自の砥粒分散技術を開発



砥粒凝集を解消

大径ダイヤモンド砥粒を安定的・強固・均一に固定

👑 オンリーワン技術

ダイヤモンドワイヤ製造装置「PHX-01」を自社開発

CCDカメラが4列すべてのワイヤを検査・自動制御



独自フィードバック

独自の解析技術

- ・メッキ槽内のダイヤモンド濃度
- ・ダイヤモンド砥粒付着状態

ダイヤモンド砥粒の
オンデマンド供給を実現

無人での高速生産・
長距離生産が可能

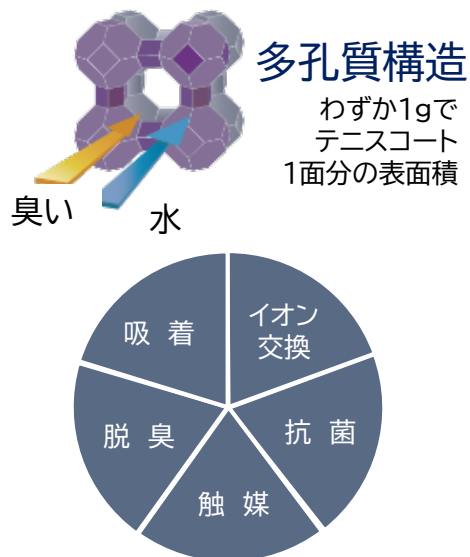
超コンパクト構造
独自砥粒分散技術

ダイヤモンド砥粒・メッキ液
使用量の極小化

ゼオライトを極小化したナノサイズゼオライト「Zeol」の特徴

通常のゼオライト

粒子径: 3~5 μm



ナノサイズゼオライト

粒子径: 50~100 nm

nm (ナノ)は μm (マイクロ)の1000分の1のスケール

機能性大幅にUP

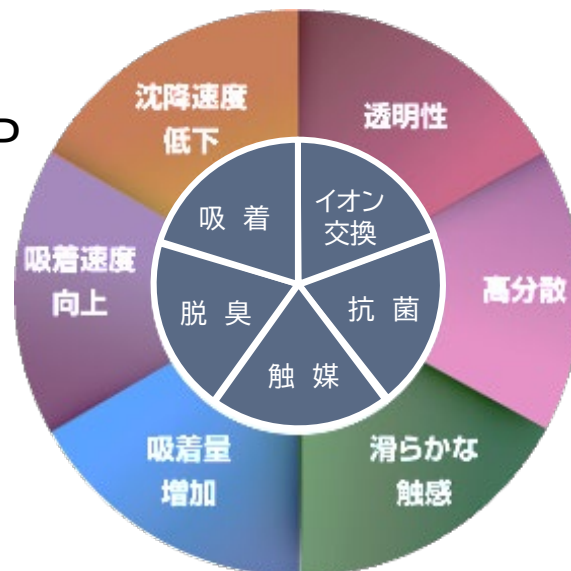
おなじ重量で

✓ 粒子数

約 **100万** 倍

✓ 外表面積

約 **100** 倍



東京大学との共同開発
特許取得済 / 粉碎・再結晶化プロセス

低コスト化を実現

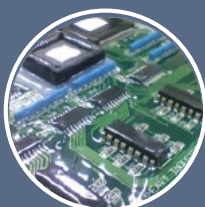
ナノサイズゼオライトの機能をより多くの用途へ

封止材

ナノサイズ化により狭小スペースへの
高密度充填が可能



半導体封止パッケージ



基板封止

塗料・接着剤

ナノサイズ化により
接着強度向上や長寿命化を実現



塗 料

コスメ・ケア用品

ナノサイズ化により性能向上や
使用感・肌触りの改善を実現



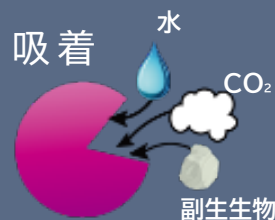
イオン吸着



ガス吸着



発熱反応



透明フィルム

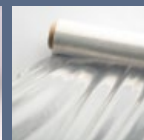
水分やガスの吸着機能に
ナノサイズ化による透明性をプラス



薬包材



食品包材



透明フィルム

1. 会社概要

Company Profile

2. 成長戦略

Our strength

3. Vision 2030について

Vision 2030

4. 大阪・関西万博への出展について

Topics

財務ハイライト(連結)

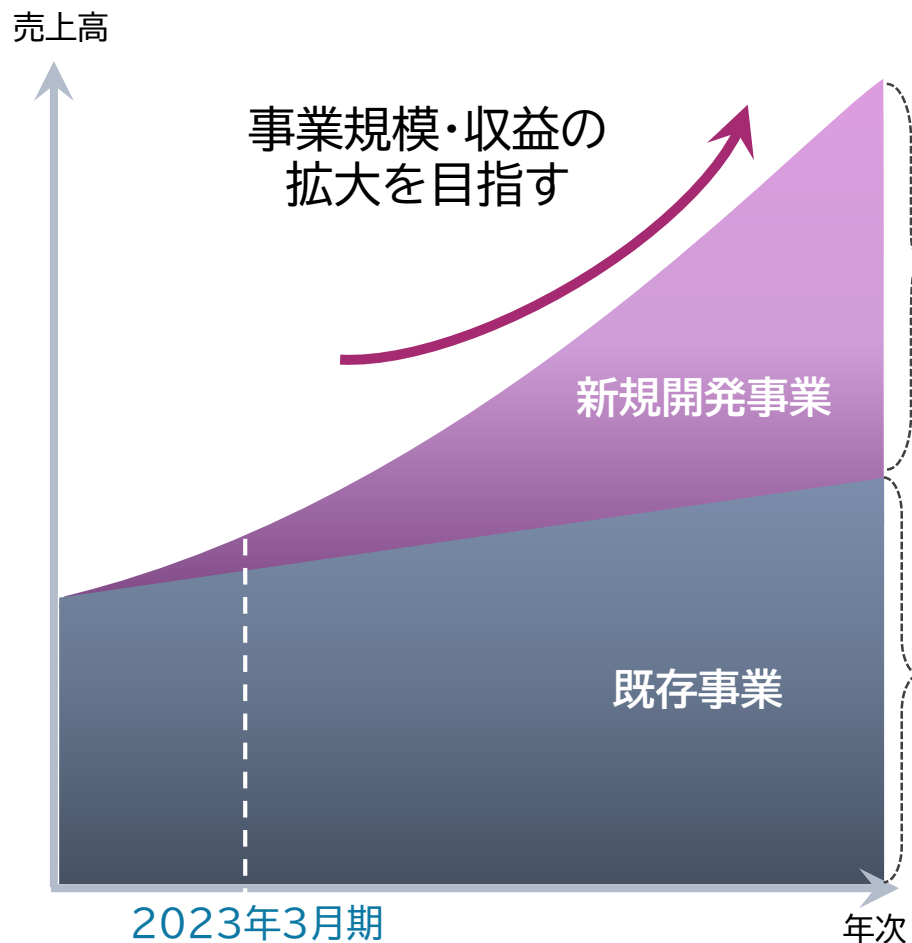
Financial Highlights

株 式 の 状 況

Stock market situation

中期的な成長イメージ

既存事業である特殊精密機器事業・化学繊維用紡糸ノズル事業の安定的な成長に加え、新規事業開発として取り組んでいるナノサイズゼオライトの事業化や半導体向けダイヤモンドワイヤの販売・ダイヤモンドワイヤ製造装置の販売などにより、事業規模・収益の拡大を目指してまいります。



新規開発事業の事業化

マテリアルサイエンス事業

- ・ ナノサイズゼオライトの量産顧客の獲得

D-Next事業

- ・ パワー半導体・難削材向けダイヤモンドワイヤの販売
- ・ ダイヤモンドワイヤ製造装置の販売

既存事業の安定的な成長

特殊精密機器事業

化学繊維用紡糸ノズル事業

2025年3月期 連結業績予想

2024年4月1日～2025年3月31日

(単位:百万円)

	第2四半期(累計)			通 期		
	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	対前年 増減額	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	対前年 増減額
売上高	1,191	1,550	358	2,413	3,300	886
営業利益	△200	△20	180	△532	110	642
経常利益	△205	△30	175	△553	80	633
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△265	△70	195	144	20	△124

2024年3月期
取 り 組 み

- ・ 商社活用による自動車・半導体製造装置分野での新規顧客開拓
- ・ 新たな加工技術獲得による大手顧客からの新規アイテムの受注
- ・ 大手メーカーとのOEM案件における受注拡大

< 事業環境 >

厳しい事業環境が継続

- ・ 主力顧客であるベアリング・半導体業界が低調
- ・ 実装機のメイン市場である中国経済停滞の長期化

大手自動車部品メーカー
への販路拡大

大手ベアリングメーカー
との新規取引開始

半導体製造業界での
新規顧客開拓

一定の成果はあったもののベアリング・半導体業界がともに低調

受注・売上が大きく落ち込む

売上

715 百万円



対前年増減額
△102百万円

損失

△11 百万円



対前年増減額
△52百万円

< 事業環境 >

電子部品・工作機械業界

- ▶ 上期：調整局面で厳しい状況
- ▶ 下期：回復の見込み

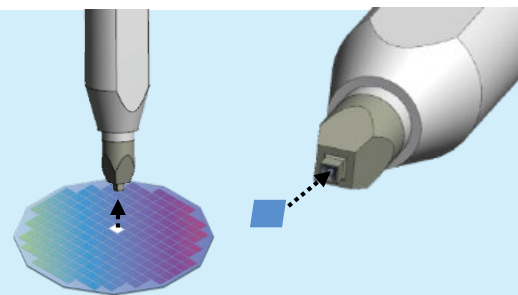
成長戦略

これまでの成長戦略を維持、継続して取り組みを進める

1

新規顧客開拓による売上の拡大

- ・半導体製造メーカーへの吸着コレットの販売開始
- ・同業他社の事業撤退等による部品加工需要の取り込み
- ・医療分野におけるものづくり需要の取り込み



2

微細精密加工技術の進化による既存顧客からの新規アイテムの受注

- ・新開発の実装機用ノズル販売開始による売上拡大
- ・電子部品の小型化(0.2mm×0.1mm)に対応した極細穴ノズルの販売開始
- ・高硬度・高精度加工を武器にした大手自動車部品メーカーとの取引拡大

売上高通期見通し

850 百万円 （前年同期比 +18.8 %）

化学繊維用紡糸ノズル事業 | 2024年3月期における取り組みとその結果

2024年3月期 取 り 組 み

- ・ 新工場稼働による大型部品加工関連市場への参入
- ・ 風力発電用ブレード向け炭素繊維用ノズルのさらなる販売拡大
- ・ アメリカ、ヨーロッパ、トルコ、インド市場への営業活動強化

< 事業環境 >

- ・ 風力発電用ブレード向け・航空機向け炭素繊維用ノズル ▶ 引き続き**好調に推移**
 - ・ 不織布関連ノズル ▶ **計画を大幅に下回る**
- 主な要因: 中国経済停滞の長期化やマスク需要の早期終息

炭素繊維用ノズルのさらなるシェア拡大

新規顧客獲得に成功

フィルム用ダイ加工技術の獲得

加工技術の獲得が完了

中国外顧客への営業展開の強化

受注は獲得しているものの、
中国売上減のカバーには至らず

売上

1,570

百万円

対前年増減額
△687百万円



損失

△55

百万円

対前年増減額
△432百万円



< 事業環境 >

- 炭素繊維用ノズル ▶ 風力発電用ブレード向け及び航空機向け引き合い・受注は**好調に推移**
- 不織布関連ノズル ▶ 中国経済停滞の長期化により 売上・受注は低調に推移

成長戦略

これまでの成長戦略を維持、継続して取り組みを進める

1 フィルム用ダイ・不織布用大型ノズルの受注・売上拡大



2 炭素繊維用ノズルのさらなる販売拡大



3 営業活動強化による**中国依存度の低減**

アメリカ ヨーロッパ
トルコ インド 東南アジア

売上高通期見通し

2,000 百万円 （前年同期比 +27.3 %）

① パワー半導体・難削材向けDW販売の状況

2024年3月期
取 り 組 み

- ・ 国内大手顧客への販売を立ち上げる
- ・ 主導的に細線化を実現し付加価値向上を目指す
- ・ タングステン素線を用いた新製品を早急に市場投入

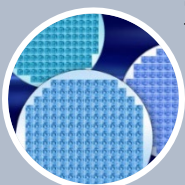
国内大手顧客獲得は順調に進捗
顧客獲得計画は完了に近づく

当社DWの使用用途

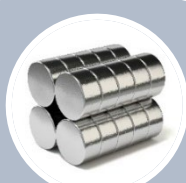
化合物半導体
(SiC、GaN等)



窒化ケイ素



セラミックス



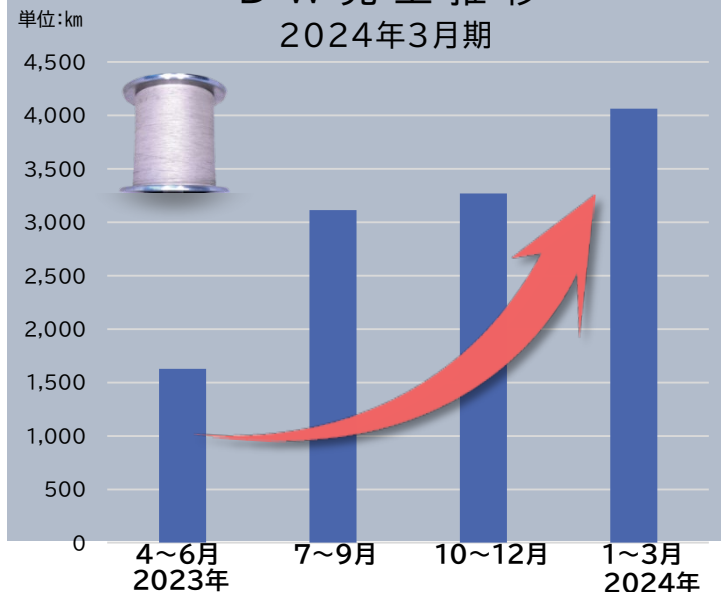
ネオジム磁石



LED用
サファイア

顧客内シェア引き上げによる
販売数量拡大が進行中

DW売上推移 2024年3月期



事業基盤構築はほぼ完了 さらなる販売量拡大による **収益事業化フェーズへ移行**

② ダイヤモンドワイヤ製造装置販売の状況

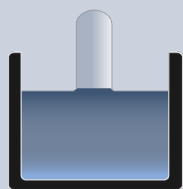
2024年3月期
取 り 組 み

- ・ ダイヤモンドワイヤ製造装置の高性能化
- ・ インド市場を最重要ターゲットとして営業活動を展開し、早期契約締結を目指す

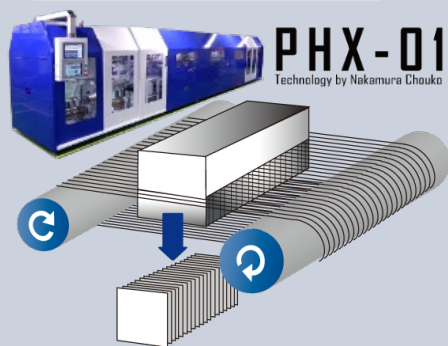
契約締結に向けた交渉は長期化の見通し

インド国内における太陽電池自国内生産化の進捗
川上工程の進捗に遅れが発生

引上げ工程



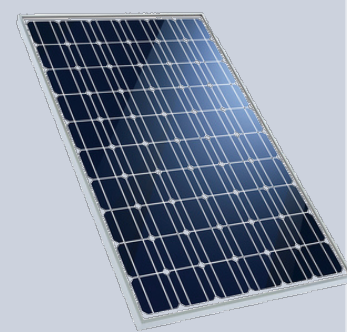
ウエハスライス工程



セル工程



モジュール工程



売上

121 百万円

対前年増減額
△48百万円



損失

△316 百万円

対前年増減額
△154百万円



成長戦略

2025年3月期はDW販売の拡大に注力

① DW(ダイヤモンドワイヤ)の販売戦略



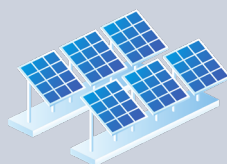
D-Next事業の収益事業化を実現する

② ダイヤモンドワイヤ製造装置(PHX-01)の販売戦略

インド市場の有望性及び太陽電池自国内生産化の方針については変化はなし

インドにおける太陽電池の調達

インド国内の太陽電池の需要増



脱炭素
+
世界一の人口

【現状】中国からの輸入に依存

インド政府の方針

サプライチェーンの「脱中国化」
太陽電池自国内生産化を強力に推進

巨大なダイヤモンドワイヤ需要が
インド国内に新たに誕生

インドにおけるウエハスライス工程立ち上げの遅れを考慮し
インド大手財閥系企業との大口契約は2025年3月期計画には織り込まず

売上高通期見通し

430 百万円 （前年同期比 +254.5 %）

2024年3月期
取 り 組 み

早期事業化を目指し、売上拡大を図る

2025年度 量産開始

に向け、顧客・エンドユーザーによる評価が継続中



顧客・エンドユーザーにおける評価に時間を要す
エンドユーザーにおける量産品質安定に向けた評価 ⇒ 繰り返し実施

売上

5 百万円

対前年増減額
△71百万円



損失

△156 百万円

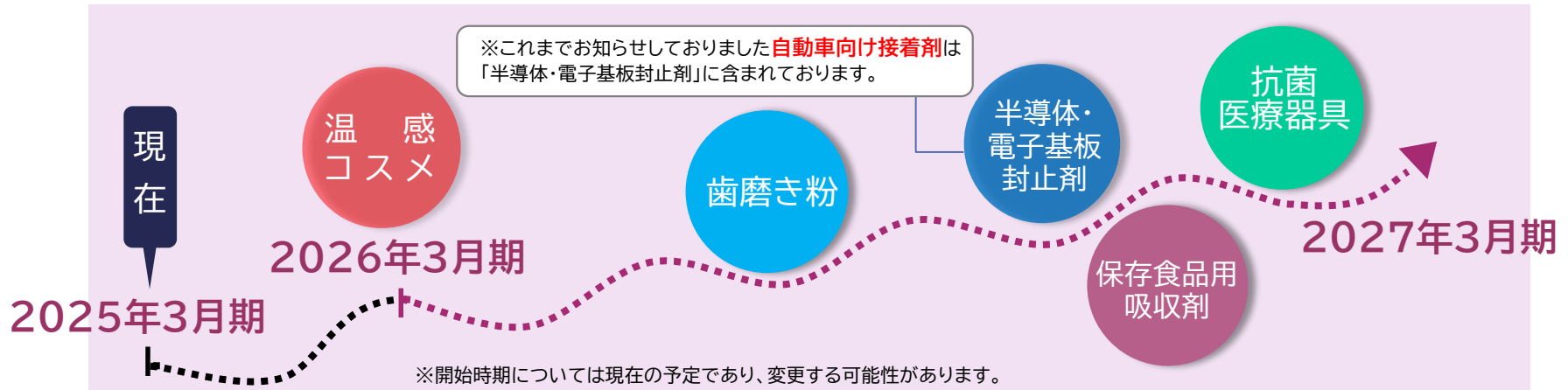
対前年増減額
△19百万円



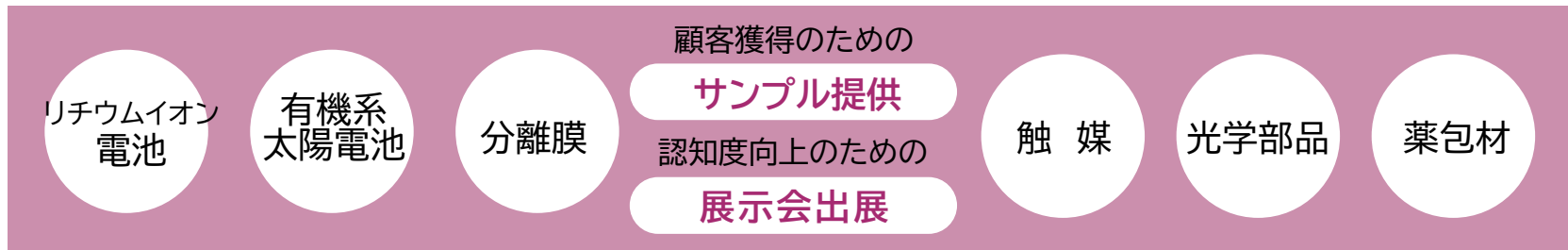
- 顧客獲得のためのサンプル提供による売上のみ

取り組み項目 新たな用途開拓のためのサンプル提供＋展示会出展を継続

次年度(2025年度)における量産開始に向けた評価の進捗



今後の量産採用に期待できる分野



売上高通期見通し

4Qに2025年度に向けた量産先行品の出荷開始を計画しているため

20 百万円 (前年同期比 +286.6%)

1. 会社概要

Company Profile

2. 成長戦略

Our strength

3. Vision 2030について

Vision 2030

4. 大阪・関西万博への出展について

Topics

財務ハイライト(連結)

Financial Highlights

株 式 の 状 況

Stock market situation



2030年度に向けての長期成長目標について

全社売上高推移

単位:百万円

8,000

6,000

4,000

2,000

0

2024
(年度)

2025

2026

2030

連結売上高

2030年度 **70** 億円

企業価値の向上を目指す

マテリアルサイエンス事業
D-Next事業 **利益拡大**

営業利益率10%
以上を確保

早期の
復配実現を目指す

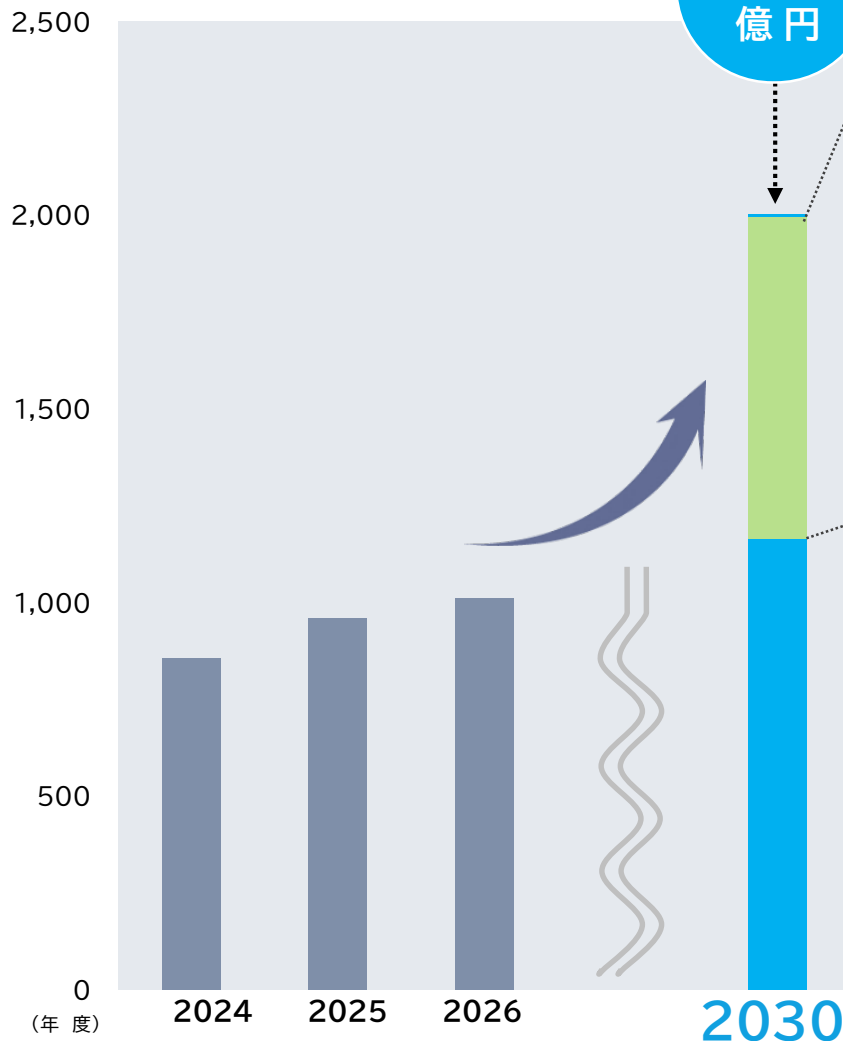
Next Stage

東証プライム

への市場替えを
目指す

特殊精密機器事業

単位:百万円



増設



本社工場と同等の
ワンストップ対応力を
備えた拠点を増設

+



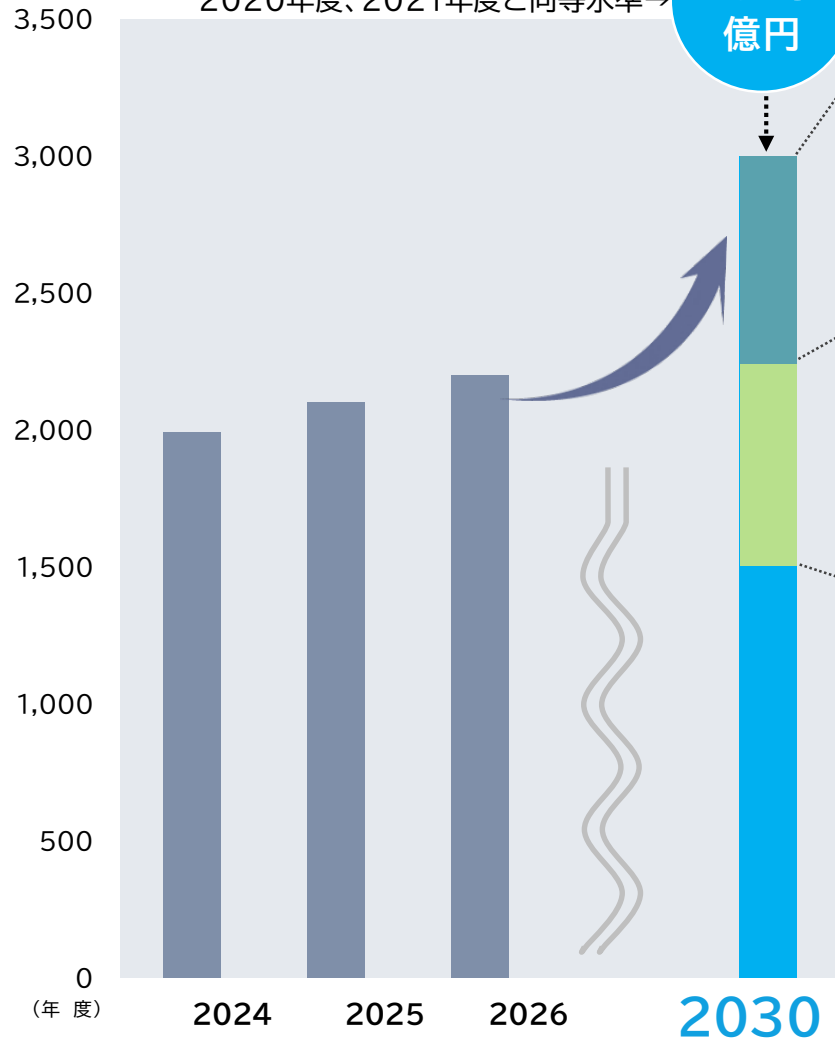
現在の事業拠点である
本社工場の売上高を
最大化

中村超硬の本社工場の特長
ワンストップ対応力
ご提案～設計～製造～検査まで

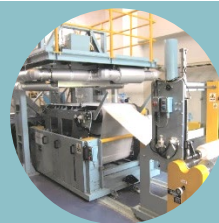
化学繊維用紡糸ノズル事業

単位:百万円

2020年度、2021年度と同等水準→



30
億円



不織布製造装置をはじめとする装置販売の拡大



新工場の売上極大化

- ・大型不織布製造用ノズル・ダイ
- ・新規参入分野のフィルム用ダイ



化学繊維用紡糸ノズルのさらなるシェア拡大による売上高増



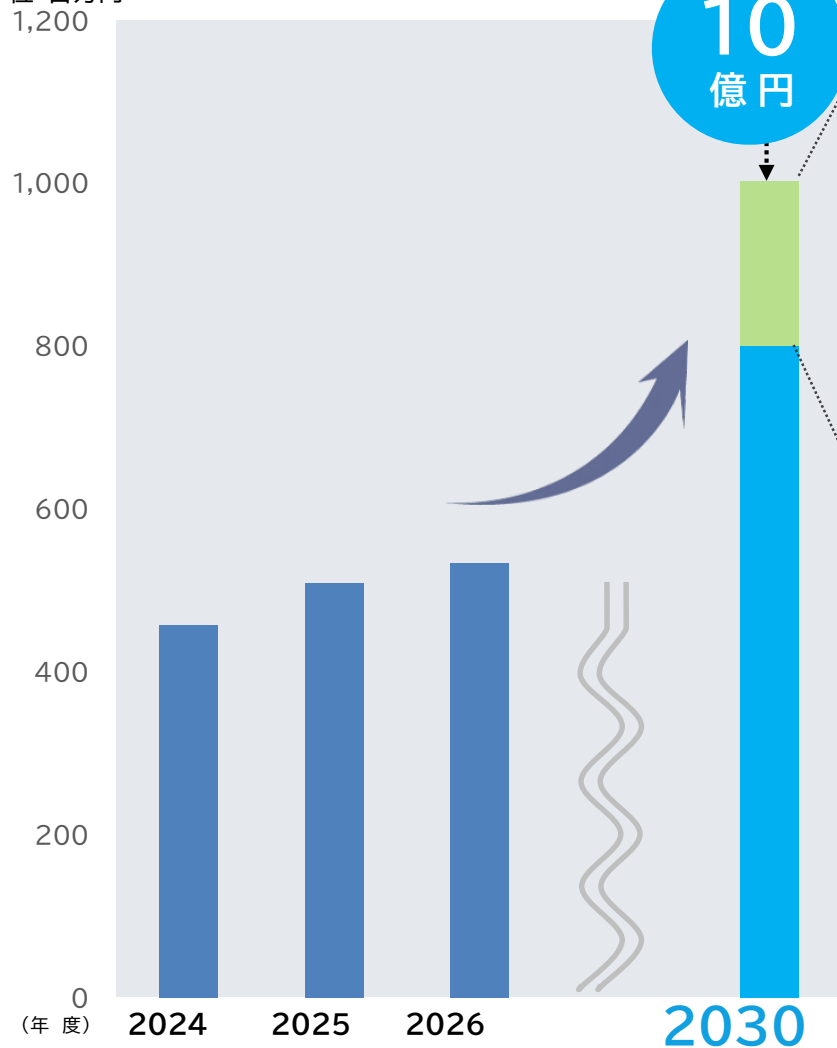
炭素繊維用ノズル



不織布用ノズル

D - Next 事業

単位:百万円



ダイヤモンドワイヤ海外向け販売を拡大



+

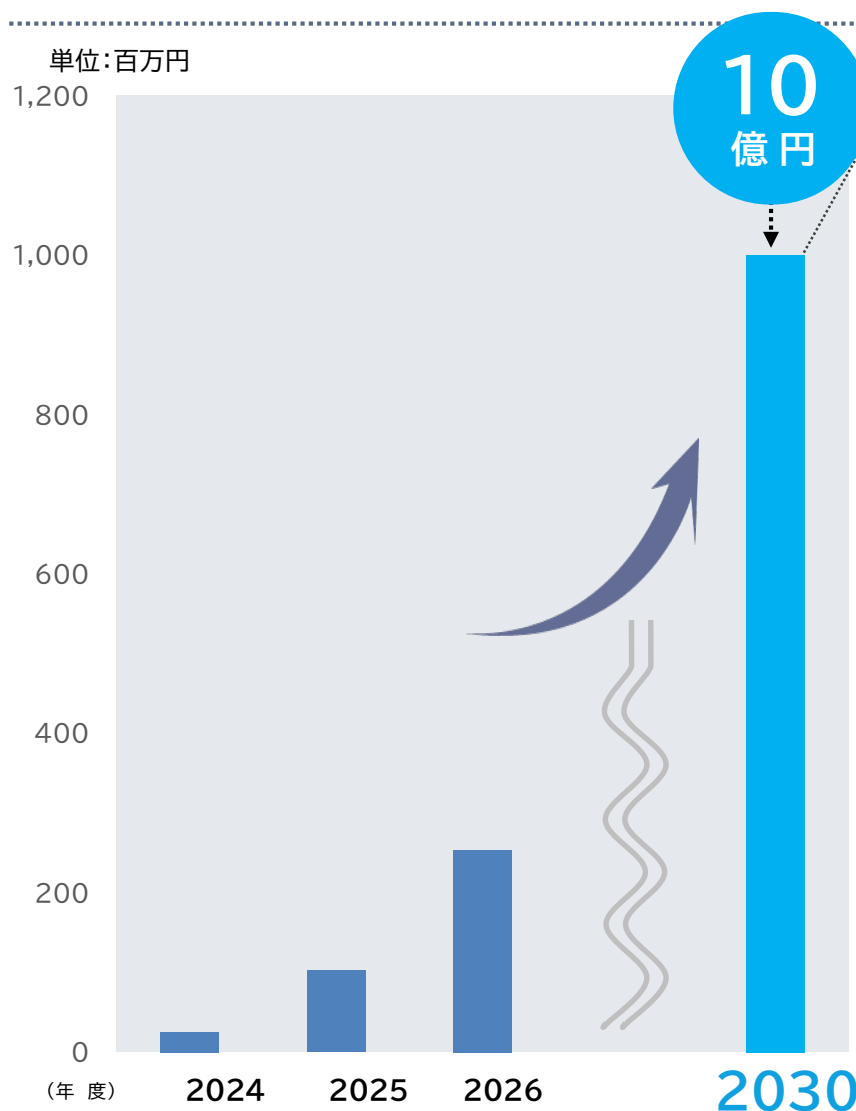
国内ダイヤモンドワイヤユーザーへのさらなる販売拡大



国内トップの
ダイヤモンドワイヤメーカー

NO.1

マテリアルサイエンス事業



ナノサイズゼオライト
の用途拡大

Zeolal®

粒子径: 50nm~
粒子数: 従来の100万倍

- フィルム: 吸湿・吸着・透明性保持
- 塗料: 抗菌・吸湿
- 封止材: 極小スペース添加・吸湿
- 接着剤: 保管安定性

フロー合成でのPIP製造で創薬分野へ

PIP

がん治療薬などにおいて
副作用の少ない
医薬品の開発が期待される

(ピロール・イミダゾール・ポリアミン)

1. 会社概要

Company Profile

2. 成長戦略

Our strength

3. Vision 2030について

Vision 2030

4. 大阪・関西万博への出展について

Topics

財務ハイライト(連結)

Financial Highlights

株 式 の 状 況

Stock market situation



**Osaka
Healthcare
Pavilion**
Nest for Reborn

大阪・関西万博への出展

2025年日本国際博覧会 大阪ヘルスケアパビリオン
Japan EXPO 2025 Osaka Healthcare Pavilion

展示・出展ゾーン

大阪商工信用金庫主催のリボーンチャレンジ

Rethink

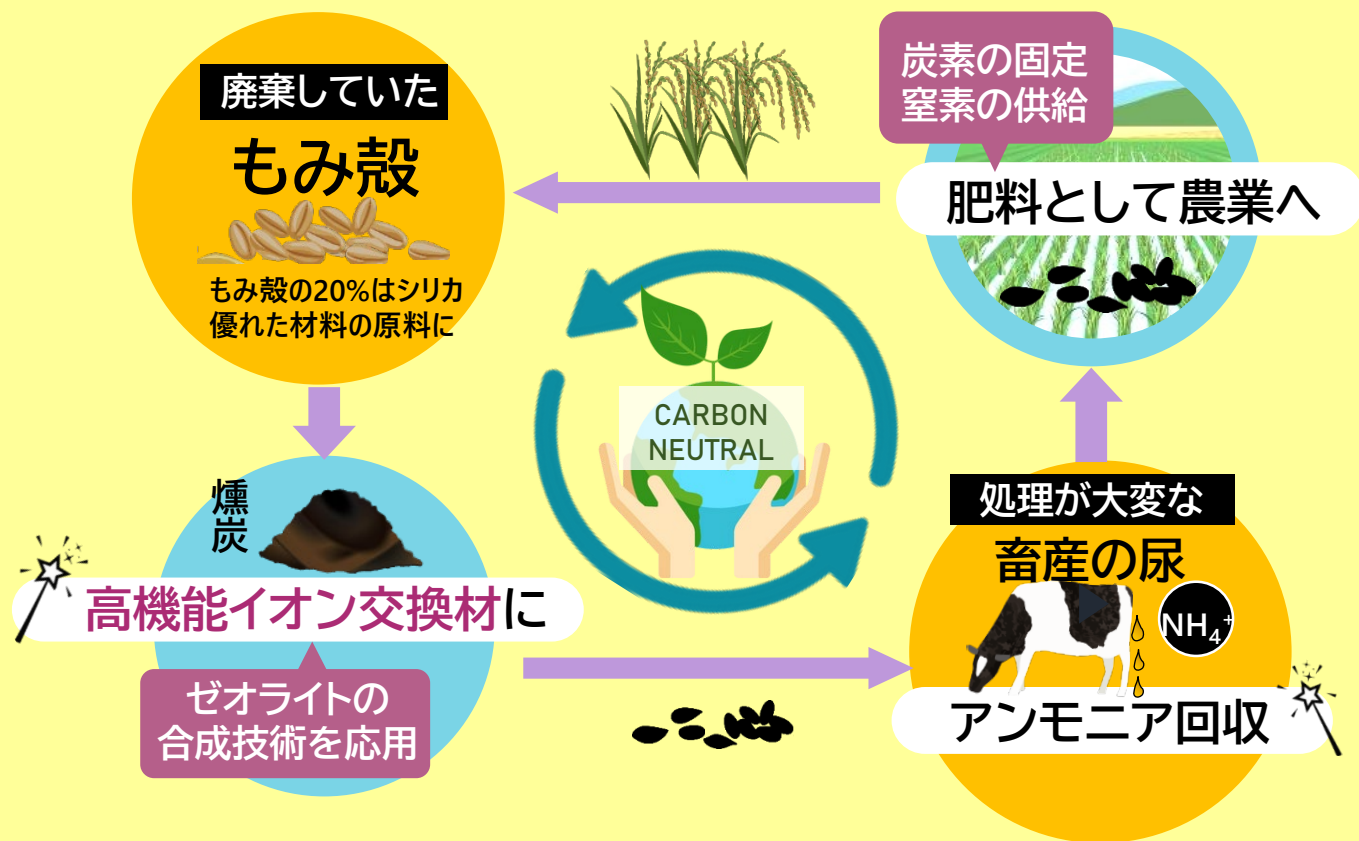
まちからはじまる 脱炭素への取り組み まちと社会、これからの暮らし



開催場所：大阪ヘルスケアパビリオン内
出展期間：2025年5月13日～5月19日(7日間)
出展テーマ：(仮)もみ殻燻炭を用いた窒素・地域循環システム

もみ殻燻炭を活用した窒素循環型社会の実現に向けた取り組み

脱炭素



大阪・関西万博

大阪商工信用金庫主催 リボーンチャレンジ

2024年（令和6年）5月25日

日本物流新聞

日本物流新聞

2024年5月25日

連載「Rの時代」に
当社記事が掲載されました

Rの時代 Recycle

中村超硬



左から山本真矢主任技師、井上誠社長、近藤静香主任

農業廃棄物の「もみ殻」と家畜のふん尿から排出される「アンモニア」を有効に活用し、肥料兼土壌改良剤として田畑に埋め戻す「炭素と窒素のリサイクル（カーボンニュートラル社会）」を研究開発している企業という「農天出身の若者が始めた起業3年目ぐらいのベンチャー」といったイメージが浮かぶのではないかと「瞬間的感覚を覚える。」

井上誠社長は「太陽電池を製造するとシリコンの切り屑が発生する。当初はそれをリサイクルしようと東京大学と産学連携でシリコンとアルミを反応させるゼオライト（アルミノシリケート）の開発に取り組んでいた」とする。その後、太陽電池の生産が中国など国外に移り、国内でのリサイクルの

もみ殻

アルミノシリケート化で肥料に

その企業がミシンの小ネジ製造から始まり超硬合金やダイヤモンドを使用した工具や精密機械部品、太陽電池やパワー半導体などをスライスするダイヤモンドワイヤの開発、販売などを手掛ける中村超硬と聞くと、「工業系の企業が、なぜ農業とかけ離れたもみ殻？」と不思議な感覚を覚える。

物質（アルミノシリケート）の機能に着目した。

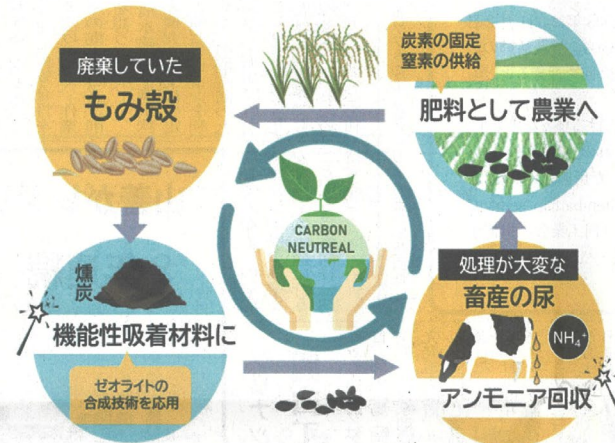
■さかいエコシステムと名付け世界へ

もみ殻は20%のシリカ（SiO₂）が含まれる、というところのいい人なら、本業からの一貫性に気づくだろう。

「もみ殻」は活用が難しく、多くが廃棄処理されている。もみ殻そのものを土壌改良剤として畑に戻す例もあるが、微生物がもみ殻を分解しようとする過程で窒素が消費され土壌が痩せる。そこで、もみ殻を、CO₂排出を抑えた蒸し焼きにした「燐炭」をつくる。するとシリカ50%、残りがカーボンという状態に。「（二）にアルミを足せばアルミノシリケートとなるが、自然由来の方が好ましい。土のアルミニウムにも注目したが溶けにくいので、天然由来の水酸化アルミニウムなどを模索している」（山本真矢主任技師。アルミノシリケート化した燐炭に家畜の糞尿を混合、現在は大阪公立大学の農学部で肥料としての有効性を確かめるべく栽培試験を実施中。昨年、小松菜を100株栽培、今年5月よりコマの生産にも挑戦する。

化成肥料との比較も行っており「条件にもよるが、化成肥料に対しては優位性がある可能性も示唆される。微生物がアンモニアを土の中で硝酸体し、植物が利用しているが、ゼオライト構造ゆえにアンモニアがゆっくりと反応するのでいわゆる「肥料切れ」が起こりにくいようだ。まだまだ試験数が少ないので検証は必要だが、面白い材料だと思う」（山本主任技師）とする。燐炭自体に土壌改良効果があることも含めて、化成肥料と差別化していく。「コストと

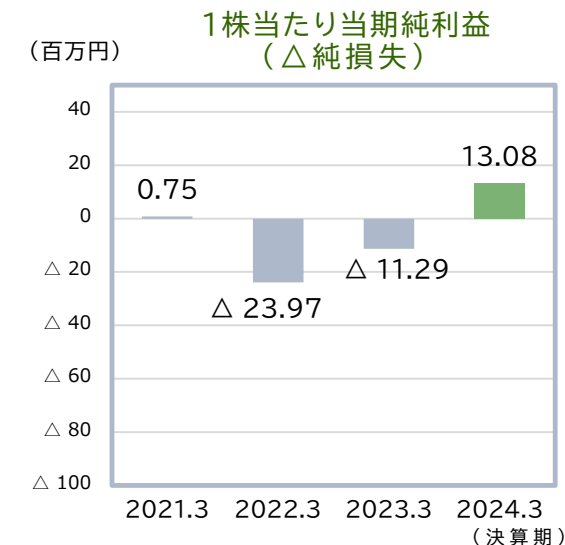
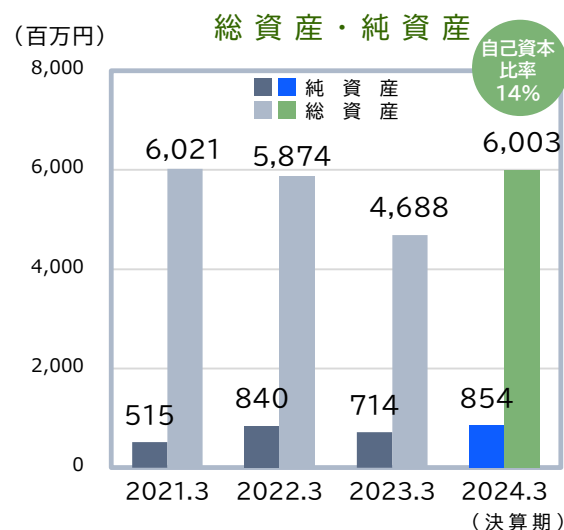
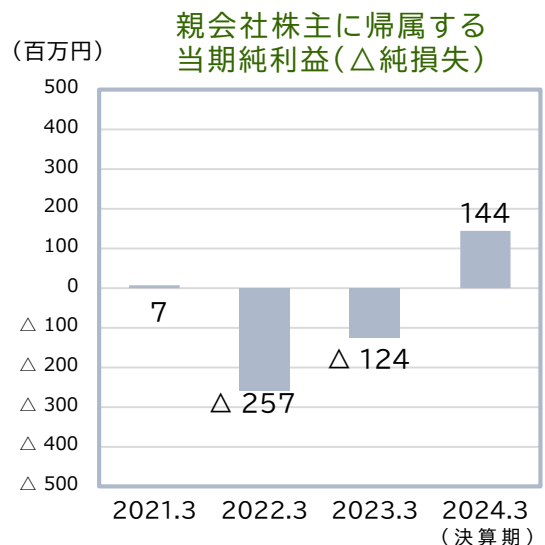
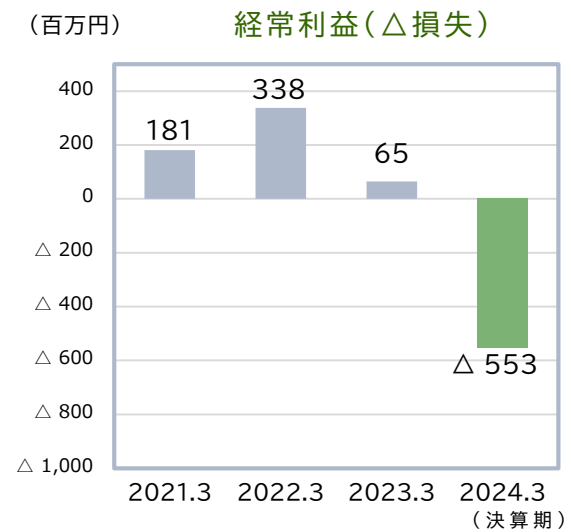
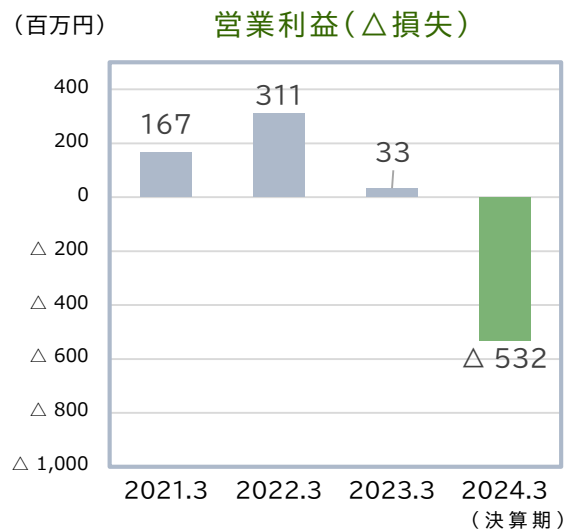
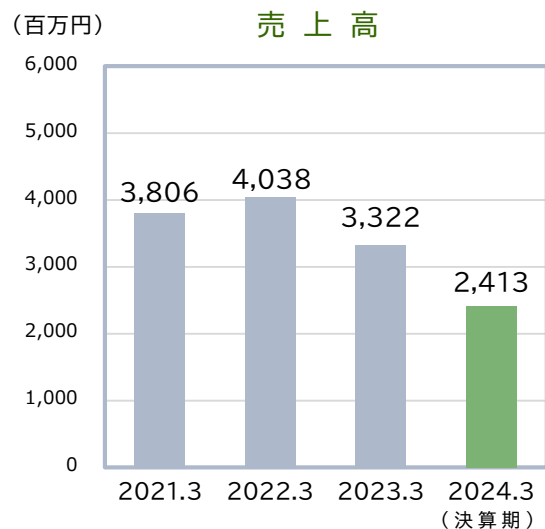
化成肥料との比較も行っており「条件にもよるが、化成肥料に対しては優位性がある可能性も示唆される。微生物がアンモニアを土の中で硝酸体し、植物が利用しているが、ゼオライト構造ゆえにアンモニアがゆっくりと反応するのでいわゆる「肥料切れ」が起こりにくいようだ。まだまだ試験数が少ないので検証は必要だが、面白い材料だと思う」（山本主任技師）とする。燐炭自体に土壌改良効果があることも含めて、化成肥料と差別化していく。「コストと



もみ殻燐炭のリサイクルモデル

財務ハイライト(連結) Financial Highlights

※ 百万円未満切捨て



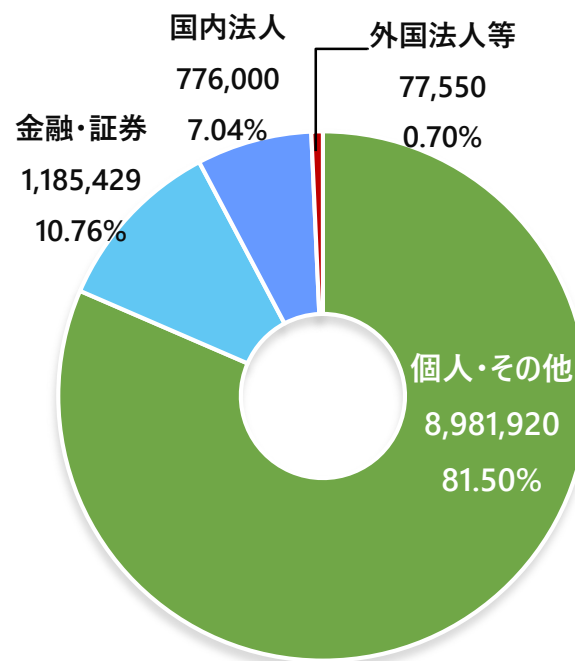
2024年3月31日現在

発行可能株式総数 : 30,000,000株
発行済株式の総数 : 11,020,900株
株主数 : 8,111名

大株主(上位10位)

株主名	持株数	持株比率(%)
楽天証券株式会社	292,800	2.66
株式会社YMD	273,100	2.48
井上誠	258,920	2.35
株式会社SBI証券	226,100	2.05
株式会社ナカムラコーポレーション	179,000	1.62
野村證券株式会社	167,913	1.52
井上阿佐美	141,180	1.28
井上紘章	133,800	1.21
井上絢哉	128,700	1.17
株式会社北野興産	90,000	0.82

所有者別分布状況



(注)持株比率は発行済株式の総数から自己株式(1株)を控除して算出しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777 (通話無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.nakamura-gp.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)



1. 株主様の住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。